

## 2020 年度文部科学省・日本人学校教育環境整備事業

### 「ICT を活用した教育体制構築に関する実証事業」

#### 講評

評価者： 森田 裕介

早稲田大学人間科学学術院 教授

#### 学校名

ロッテルダム日本人学校

#### キーワード

授業デザイン、ICT 活用、ハイブリッド教育体制、イエナプラン

#### 講評

ロッテルダム日本人学校の報告書につきまして、次の3点において優れていると判断致しました。第一に、ハイブリッド授業の体制を構築した点についてです。対面での授業とオンライン授業を連携したハイブリッド教育体制を速やかに構築し、感染症によって登校が制限された状況下においても「子どもの学びを止めない」よう対応した点や、教員の約8割が自信を持ってオンライン授業を実施できるようになった点も高く評価できます。特に、情報通信環境やデジタル教材の整備を行うことにより、対面授業とオンライン授業の連携をより効果的に実施した実践事例は、多くの学校の参考となる資料です。ハイフレックス型授業（オランダ国内にいる生徒には対面で授業を実施し、日本に帰国している子どもにはオンラインで授業参加を促す）は、今後、有効な授業方法となり得るでしょう。

第二に、ICT を活用したアクティブラーニングを実施した点についてです。オンライン授業を実施するためのプラットフォームの活用ならびにコミュニケーションツールや自動翻訳機を使ったアクティブラーニングのデザインは、日本人学校だけでなく、海外の児童・生徒との交流を検討している日本国内の学校にも有益な情報だといえます。また、学習ソフトを用いて、個別最適化された学びに取り組み、自律的な学びを支援する取り組みをしています。実践事例報告集は、これから取り組みを始めようと考えている学校に有益な知見となり得ます。

最後に、授業形態を再考し、質的に転換した点についてです。日本の教師が持つ一斉授業と宿題を繰り返す授業から、オランダで広く知られているイエナプランをベースにした「自ら学ぶ力を育てる」授業へと転換した点は高く評価できます。教師が自身の教育観を転換し、ICT をよりよく活用した効果的な授業をデザインすることができれば、教師にとっても、子どもたちにとっても、良い学びにつながっていくことでしょう。